

# 好みのコーデックIC用 デバイス・ドライバを作る

三ツ木 祐介

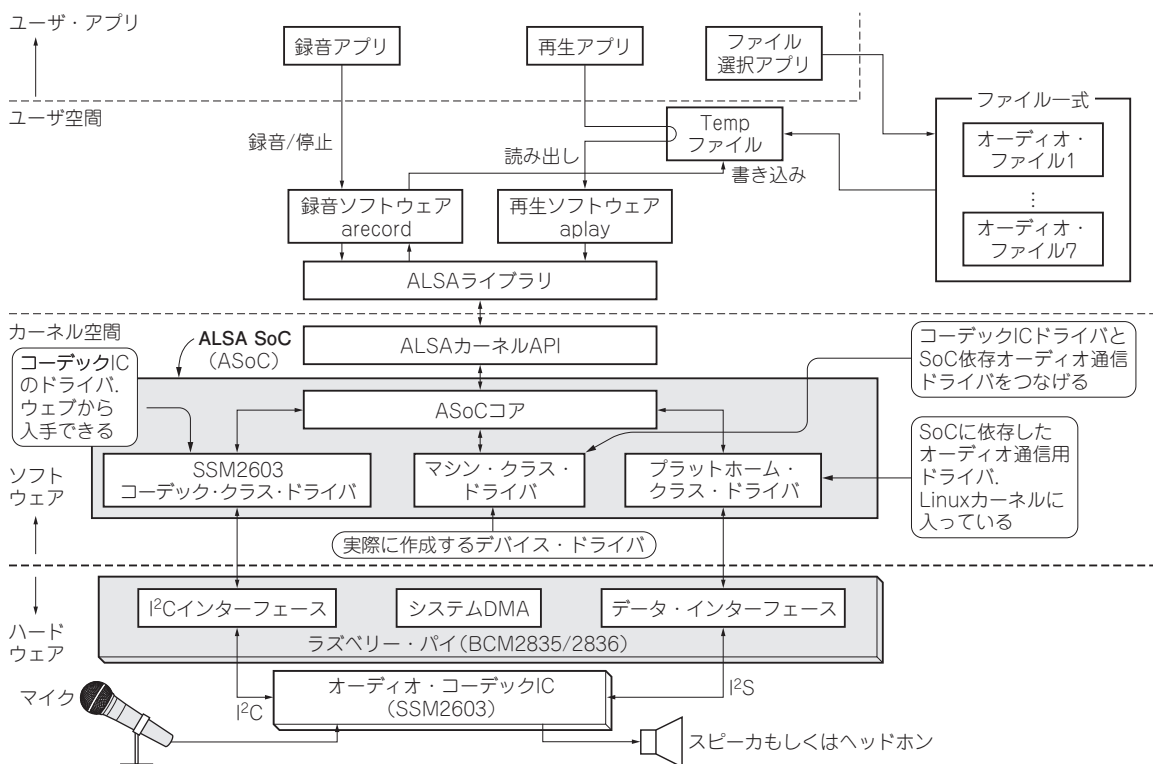


図1 ラズパイ録音&再生装置のソフトウェアにおける今回作成するデバイス・ドライバの位置づけ

## ● オーディオ・コーデック用デバイス・ドライバの構成

この章ではSSM2603ドライバを作成し、オーディオ・コーデック基板UMB-SSM2603をLinuxで使用できるようにします。Linuxドライバ、その中でもオーディオ用ICを動かすためのALSA SoCドライバについて説明します。

実際に作成するデバイス・ドライバは、図1のマシン・クラス・ドライバです。すでに存在するラズベリー・パイ用プラットフォーム・ドライバとSSM2603用コーデック・ドライバの関連付けを行うことで、ALSAサウンドカード・デバイスを構成します。

## 外付けオーディオ・コーデック SSM2603用のドライバ

### ● カーネルのバージョンによって対象ハードのドライバがないときがある

SSM2603をLinuxで使用するにはドライバの有無がキー・ポイントとなります。カーネルのバージョンによって、ドライバが存在したりしなかったりするのです。

今回はYoctoのmeta-raspberrypiのカーネルを使用します。執筆時点でのカーネルのバージョンは3.18です(meta-raspberrypiは<http://git.yoctoproject.org/git/meta-raspberrypi>か